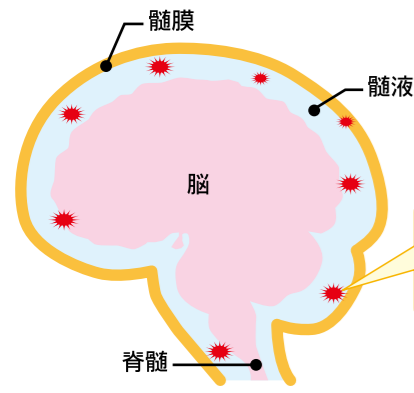


# ヒブ（Hib）ワクチンと小児用肺炎球菌ワクチンで細菌性髄膜炎予防しましょう

予防接種が**無料**で受けられるようになりました！

## 細菌性髄膜炎ってなに？



いつ、だれが、かかるかわからない！子どもの命にかかわる怖い病気です。

脳や脊髄を包む髄膜の奥まで細菌が入り込みます。ときに、脳まで病気がおよぶことがあります。

細菌性髄膜炎とは、ヒブ（Hib：インフルエンザ菌b型）や肺炎球菌などの細菌が、脳や脊髄を包む髄膜の奥まで入り込んでおこる病気です。ときに命にかかわったり、重い後遺症が残ったりすることもあります。

## かかりやすい年齢は？ どれくらいの子もたちがかかるの？

日本では、毎年約1,000人の子どもが細菌性髄膜炎にかかっています。原因となる細菌は、ふだんから多くの子もたちのノドや鼻の奥にすみついている身近な菌のため、いつ、だれがかかるかわかりません。もっともかかりやすいのは、病気とたたかう力（免疫力）がまだ未熟な生後6ヵ月から2歳くらいまでの小さな子どもです。年齢とともにかかりにくくなりますが、4歳ごろまでは危険年齢といえます。

## 細菌性髄膜炎にかかるとどうなるの？

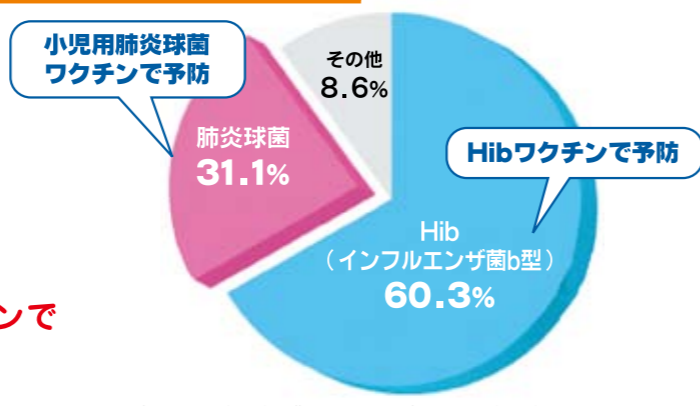
細菌性髄膜炎にかかると発熱、頭痛、嘔吐、不機嫌、けいれんなどの症状がみられ、そのうち約5%は死亡し、約25%に後遺症（聴覚障害、発達遅延、神経学的障害など）がみられます。

細菌性髄膜炎は、初期症状がかぜ症状と区別がむずかしく、簡単な検査では診断がつかえません。また、早期診断がついても現在では耐性菌\*が増えているため治療が難しくなっています。

\*耐性菌：薬に対して抵抗力を持ってしまった菌のこと（抗菌薬が効きにくくなります）

## 細菌性髄膜炎は、2つのワクチンで予防できます

日本での細菌性髄膜炎の原因の約90%が、ヒブ（Hib：インフルエンザ菌b型）と肺炎球菌です。どちらの菌に対しても予防に有効なワクチンがあります。



ヒブ（Hib）ワクチンと小児用肺炎球菌ワクチンで細菌性髄膜炎を予防しましょう。

生方公子・中山栄一：化膿性髄膜炎の起炎菌を中心として小児科2009；50：279-288

香川県

# ワクチンに関するQ&A

## Q 予防接種の費用は？どこで受けられるの？

**A** 一般に、ヒブ（Hib）ワクチン、小児用肺炎球菌ワクチンを接種するには、それぞれ3万円から5万円程度の費用がかかります。しかし、平成23年2月から平成24年3月末日までは、ワクチン接種緊急促進事業により、生後2か月から5歳未満の乳幼児は、**無料**で接種を受けることができます。

接種できる医療機関など詳しい内容については、お住まいの市町の予防接種担当窓口にお問い合わせください。

## Q ワクチンの副反応は？

**A** ヒブ（Hib）ワクチン：腫れや発熱、じんましん、かゆみなどがみられることがありますが、これらは、通常一時的なもので数日以内に消失します。

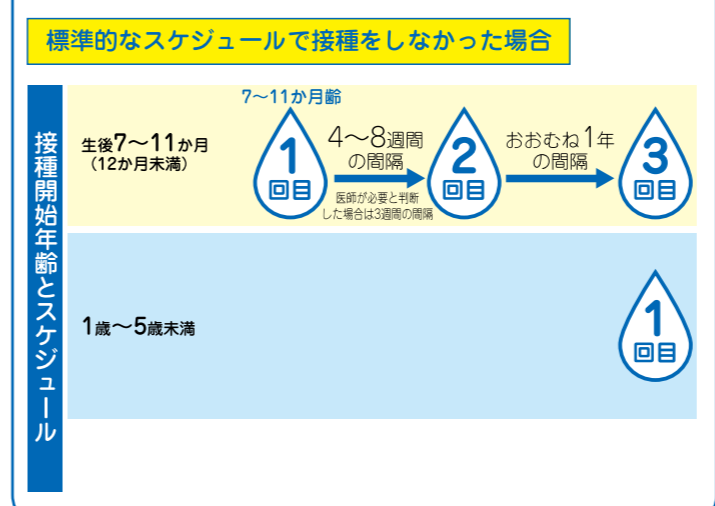
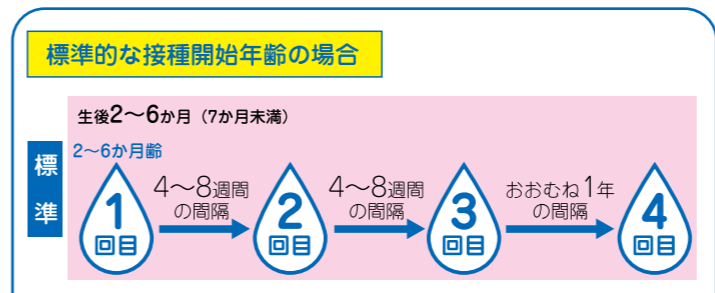
小児用肺炎球菌ワクチン：海外からの報告も含め、接種部位が赤く腫れる（10～12%）、発熱（15～24%）等があります。

※なお、重い副反応としては、まれにショック等が認められることがありますが、これは他のワクチンでも同様です。

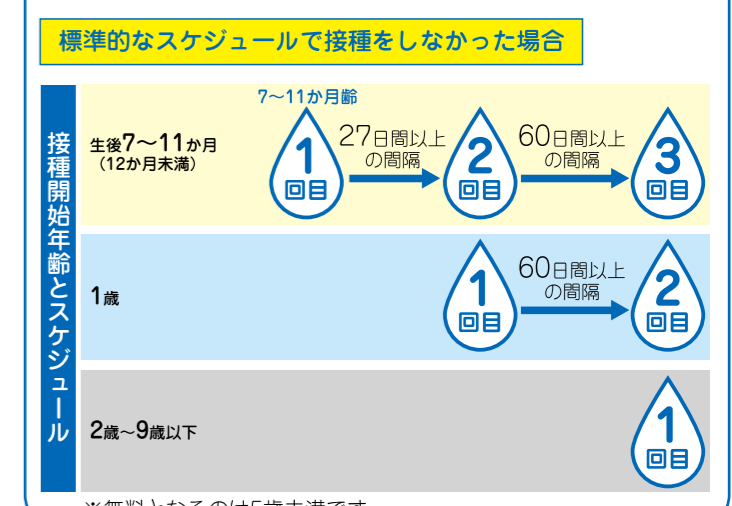
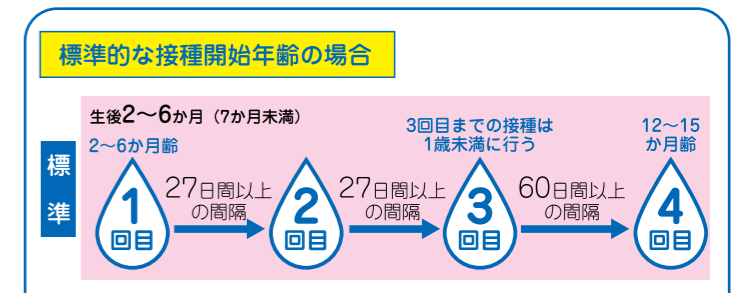
## Q 接種方法スケジュールは？

- 生後2か月から5歳未満まで接種できます。（※小児用肺炎球菌ワクチンは9歳以下まで接種できますが、無料となるのは5歳未満です。）
- 接種回数は、それぞれ合計4回（初回免疫3回、追加免疫1回）が標準です。
- 1回あたり0.5mlを皮下に注射します。

## ヒブ（Hib）ワクチンの接種スケジュール



## 小児用肺炎球菌ワクチンの接種スケジュール



※無料となるのは5歳未満です。